

報 恩 講 法 要

2025.10.26 (日)

講師 白川 晴顯 先生

講題 宗派の垣根を超えた人々



報恩講とは、親鸞聖人のご遺徳を偲び讃える法要です。阿弥陀さまのすべての人々を救うというご本願を私たちにわかりやすく伝えて下さったのが宗祖親鸞聖人です。

親鸞聖人のご遺徳を偲び、阿弥陀さまのおはたらきに感謝して、浄土真宗との出遇いを深めて参りましょう。



本日は組内の御法中が出勤して下さいました。

西光寺様・西法寺様・西條寺様・正道寺様・大仙寺様・仏光寺様とともに奉讃大師作法のお勤めをしました。皆様揃って有り難いお勤めでございました。

御法中の皆様、おつとめはしっかりと真面目に。おつとめの前後は和気藹々と、楽しくお話していただきます。浄土真宗では一番大切な報恩講。僧侶・門信徒揃って報恩感謝の法要です。



左の軸は『御絵伝』です。

親鸞聖人の御生涯が絵で表され右より1幅～4幅となり、下から上へと仰ぎ見るように描かれています。

おつとめの後は『御俗姓』^{ごそくしょう}の拝読です。『御俗姓』とは蓮如上人が親鸞聖人の御生涯や信心をいただくことの重要性を記された書物です。



臨済宗の一休宗純禅師は蓮如上人と仲が良く、親鸞聖人を讃えた句を詠まれました。「襟巻の あたたかそうな黒坊主 こやつが法は 天下一なり」また、曹洞宗の良寛和尚も「草の庵に 寝ても覚めても 申すこと 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏」とお念仏を慶ばれました。小林一茶やまた福沢諭吉も浄土真宗の教えの影響を受けているとお聞かせいただきました。

人生色々ありますが、宗派を超えて最後にはやはりお念仏であると慶ばれた方々のお話をいただきました。私たちがお念仏の教えにいち早く出遇えたことはとても有難く、お聴聞する中で「南無阿弥陀仏」と私の口からお念仏が出てくださる報恩講のご縁でした。



この度役員の森畑道夫さんが叙勲を受章され、本山からも表彰されましたので皆さんに披露させていただきました。おめでとうございます。叙勲記念の日本酒をお持ちくださり、皆さんで頂戴しました。有難うございました。

法要に際しまして、沢山のお供えを頂戴しました。

法要後、お参りの皆様に御下がりとしてお持ち帰りいただきました。有り難うございました。



多くの方が法要前には仏具のおみがきをして下さり、当日も早くからお茶やお供えのお下がりの準備、その他様々に如来様の御給仕をして下さいました。御法中の皆様、御参詣下さった方ももちろん、多くの方々のお陰さまで無事に報恩講厳修することが出来ました。有り難うございました。

